

平成29年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

《 開催地挨拶 》



■ 境港市長 中村勝治

皆様、こんにちは。地元境港市長の中村でございます。一言、歓迎のご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は大変な猛暑の中、しかも遠路のところ、ようこそ境港市にお越しくださいました。平成29年度の日本海にぎわい・交流海道ネットワークの総会と講演会、私どもの境港市で開催をさせていただきましたところ、ご来賓の国土交通省大臣官房審議官の七尾様をはじめ、多くの皆様にご参加を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、地元を代表いたしまして、皆様方を心より歓迎申し上げる次第でございます。

私どもの境港について、少し紹介をさせていただきます。

私ども境港は、東西に長い島根半島、これが自然の防波堤となっておりまして、古くから海、港と共に発展をしてきた町でございます。鳥取県の西部と島根県の東部にかけての中海・宍道湖・大山圏域でございますが、この圏域は、製造業を中心とした産業が非常に盛んでございまして、国内外に向けた交流拠点としての機能も担っているところでございます。

加えて、近年ではクルーズ客船の寄港が急増しておりまして、昨年は33回、今年は6

0回の寄港が予定されているところでございます。そして、私どもの水木しげるロードをはじめ、国宝の松江城、出雲大社、そして安来市の足立美術館など、本当に国内外から多くの観光客の皆様をお迎えするといった海の玄関口としての役割をしっかりと果たしているところでございます。

また、港の機能強化も進んでおりまして、昨年、供用開始になりました国際物流ターミナルに続き、現在は、このみなとタワーの隣接地が国の直轄事業である旅客船ターミナル整備事業として平成31年度の完成に向け、鋭意進められているところでございます。

この境港は、人や物の流れが順調に伸びておりまして、大変、元気のある港だと自負もしているところでございます。

明日、視察も予定をされておりますけれども、この港の姿の一端をご覧いただければ大変ありがたいと思います。

この後、水上飛行機を活用した事業展開によって地域の振興に取り組んでおられます株式会社せとうちSEAPLANES社長の松本様、そして、地元境港で海岸通りのにぎわいづくりに大変御尽力いただいております、みなとまちづくりマイスターの山田様に御講演をいただくわけでございますが、このお二人の取り組みにつきましては、港湾を活用した新たなまちづくりのモデルケースとして大変参考になるものと思っているところでございます。

結びになりますけれども、本日ご参会の皆様方の益々の御活躍、御健勝、そして、この日本海側の港湾の発展と、一層の連携が深まりますことを祈念いたしまして、歓迎の御挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。